マリア観音？公開へ

大和郡山 流配キリシタン所有か



2022年に大和郡山市の古民家から見つかった手のひらサイズの母子観音像が「里帰り」する。大和郡山にはキリシタンが長崎・浦上から強制的に移された歴史があり、この観音像は信徒が聖母マリアに見立てて信仰の対象にした「マリア観音」の可能性があるという。流配されたキリシタンを記念する碑の建立100周年にあわせ、11月2、3日にカトリック大和郡山教会で一般公開される。

観音像は石製で高さ11・5㌢ほど。古民家の改装中、屋根裏で火鉢のような器の中から見つかった。この古民家の近くには、長崎から流配されたキリシタンの収容所があったとされる。1867年から浦上でキリシタンが一斉検挙された「浦上四番崩れ」で、約3400人の信徒が各地に移され、郡山藩にも86人が連行された。

観音像が見つかった古民家＝大和郡山市綿町、宮崎さん提供

像を調査した四天王寺大学の仲野純章准教授によると、この観音像は、東京国立博物館が所蔵する長崎由来のマリア観音像と形状や材質、表面の塗料が類似しているという。放射光で解析したところ、大和郡山の観音像はろう石製で、内部にはアパタイトという鉱物が含まれることがわかった。仲野准教授は「マリア観音であるかは定かでないが、大和郡山の浦上キリシタンの歴史に目を向け、記憶をつなぐことに意義がある」と話す。



2022年に見つかった観音像＝浦上キリシタン資料館提供

観音像は現在、浦上キリシタン資料館（長崎市）が所蔵し、調査が続けられている。1926年にフランス人宣教師が、流配キリシタンをしのんで現在の大和郡山市内に「浦上キリシタン流配碑」を建て、今年で100年になる。100周年記念企画に関わる宮崎重明さん(76)は「浦上四番崩れは、人間の尊厳を当時の政府や社会がないがしろにした出来事。観音像の帰還をきっかけに、流配された人たちの思いを広く知ってもらいたい」としている。

カトリック大和郡山教会では、観音像と、浦上キリシタンに関するパネル展示を11月2日の午後4～7時に自由に見学できる。3日午前9時30分には記念ミサがあり、援助修道会の高木慶子シスターが「信教の自由と浦上信徒」の題で記念講演する。いずれも入場無料。問い合わせは同教会へファクス（0743・55・3036）。

（山田美季子）

反田被告、JNO社長退任

県文化会館芸術監督は継続

制限速度を84㌔上回る運転をしたとして、道路交通法違反罪で拘禁刑3カ月執行猶予2年の有罪判決を受けたピアニストの反田恭平被告(32)は、奈良市に拠点を置く「ジャパン・ナショナル・オーケストラ」（JNO）の社長を29日付で退任した。JNOがホームページで発表した。一方、改